

悔しい結果に

第27回出雲全日本大学選抜駅伝競走(以下出雲駅伝)が10月12日、出雲大社と出雲ドームを結ぶ全6区間44.5キロで行われた。学生三大駅伝の開幕戦となる出雲駅伝。三冠への思いを胸に、選手たちはレースに臨んだ。

1区は駒大のエース中谷が起用され、区間記録に迫る走りで区間賞を獲得。1区終了時点で2位青学大には15秒、出遅れた東洋大には1分23秒の差をつけた。2区はキャプテンの其田。前半から積極的な走りを見せ、2位の青学大との差を徐々に広げていく。ペースを落とすことなく、1位でタスキリレー。

各校のエースが集う3区は出雲駅伝初出場ながら、エース格として成長してきた工藤だ。第3中継所手前で青学大にかわされ、苦しい表情のなか2位でタスキを渡した。1位青学大との差が5秒つけられた。

箱根駅伝での悔しい思いをラストイヤーにぶつけた馬場。終盤青学大下田に及ばず2位でつないだ。

ダブルエースの西山は5区を走る。タスキを受け取ってからすぐに青学大と並び、し烈なトップ争いをみせる。西山は区間賞を獲得した。

アンカーは大塚が起用される。4キロ過ぎに青学大の一角が仕掛け、徐々に差が広がる。さらに、山学院大のドミニク・ニヤイロの残り600メートルでとらえられ、3位に後退しフィニッシュ。駒大は悔しい結果になった。

5連覇へ王手

第45回全日本大学駅伝対校選手権大会(以下全日本駅伝)が、11月1日愛知県熱田神宮から三重県伊勢神宮までの106.8キロ、全8区間で行われる。ダブルエースの村山・中村らが卒業し選手層の厚さが懸念されるも、日々の練習や記録会をこなしながら選手は力を積んできた。

昨年の全日本駅伝で最長区間の最終区を力走した馬場をはじめとする4年生は粒揃い。主将の其田はチームの要としてチームをけん引する。注目選手は駅伝初出場となる小山・井上・高月の4年生3人だろう。ハーフマラソンや記録会で新記録を次々と叩き出し、頭角を現してきた。駅伝は初出場のため未知数ではあるが、勝利へと導く走りに期待大だ。ルーキーの1年生、下と片西も目が離せない。駅伝の大舞台へと照準を合わせ練習を重ねてきた。特に下の實力は上級生と比べても遜色なく、他大とも十分に渡り合える。

出雲駅伝区間賞を獲った3年の中谷・西山、最終区を走った大塚、2年の工藤・高本のダブルコンビを揃え、盤石の布陣を敷く。前人未踏の5連覇に辿り着けるか。



徹底、他大分析

東洋大学

駅伝界注目の服部兄弟を擁する東洋大。弟・弾馬が全日本選手権でケニア人留学生を抜き去り優勝した1万mは記憶に新しいが、注目すべきは服部兄弟だけではない。今季は自己ベストを更新している選手が多く、夏合宿を終え各自持ち味を発揮している。出雲ではコースミスでタイムを落とすも4位という驚異の追い上げを見せた。全日本で雪辱を晴らし、勝利を目指す。

青山学院大学

今年の箱根駅伝を圧倒的な力で制した青学大。8月まで怪我で戦列を離れていた神野は出雲駅伝を欠場し、全日本駅伝に合わせて調整してきた。神野、小椋、久保田、一色の青学四天王が揃い戦力は充実。出雲駅伝では箱根で走っていない選手が3人出場するという層の厚さを見せつけ、3年ぶり2度目の優勝を果たした。伊勢路でも優勝し、三冠に王手をかけたい。

早稲田大学

今年3月、長年指導を行った渡辺康幸前監督(42)が退任。渡辺前監督のもとで10年間務めてきた相楽豊コーチ(34)が新たに監督に就任した。新体制となった早大は、日本インカレ1万mで5位入賞を果たした中村信一郎など成長をとげた上級生を中心に上位入賞を狙う。

山梨学院大学

出雲駅伝は3区を3位で走り切った佐藤、最終区間で区間賞を獲得したニヤイロの好走で2位と大躍進。山学院大はスピード自慢のオムワンバや上田誠仁監督の次男・上田健太をはじめとし、市谷や河村など幅広い層の厚さの選手を豊富に揃えている。選手たちの走順・コンディション・気持ちがうまく重なりあったとき、どんな走りを見せるのか。期待が高まる。